

海事資料 F A X 短信

Vol. 137 2008.8.15

(財)日本海事広報協会・海事情報部 TEL 03-3552-5035 FAX 03-3553-6580
ホームページアドレス <http://www.kaijipr.or.jp/> E-mail jo-ho@kaijipr.or.jp

このFAX短信は、海運、造船、港湾、港運など海事関係団体が、最近発行した機関誌や海事関係資料、海事団体のイベント情報などをご紹介します。機関誌や海事資料は、当会海事情報部で供覧しておりますので、ぜひご利用下さい。

* 機 関 誌 ・ 広 報 誌 *

| | |
|--|--|
| <p>東京湾再生に向けての横浜技調の取組 「MarineVoice21」 Vol. 262 日本埋立浚渫協会 国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所(横浜技調)では、東京湾再生のため、構内の海水導入池で小学生等の自然体験会やカキによる海水浄化実験、干潟・磯場の造成を行っている。また、環境調査船による水質調査等も実施。 03-5549-7468</p> | <p>創立50周年の日本作業船協会 「作業船」夏季号 日本作業船協会 同協会は昭和33年設立で、6月で創立50周年。高度成長期には、臨海工業地帯の整備に従事する作業船の研究開発に努め、今日では、さらに流出油やゴミの回収技術開発、漂着ゴミ対策調査も実施。今号は、同協会の歩みの他各種作業船や関連技術を紹介。 03-3271-5618</p> |
| <p>第20回国際油濁会議(IOSC2008) 「海上防災」 No. 136 海上防災事業者協会 今年5月、米国ジョージア州サバンナ市で、52か国から研究機関、政府機関、資機材関係者等2千人以上が参加し、標記会議が開催され、油濁事例紹介、研究論文の発表・質疑、防災資機材展示が行われた。その内容は公表されていて、インターネットで閲覧もできる。 045-225-0263</p> | <p>海洋の安全・環境保全のための官民の体制構築 「KAIUN」 7月号 日本海運集会所 友国日本海難防止協会会長と岩崎貞二海上保安庁長官の対談を掲載。最近の活動として、日海防ではAIS情報を活用した航行管制の調査研究を、海保庁ではAISを活用した次世代航行支援システムの整備をそれぞれ推進中。 *AIS:船舶自動識別装置 03-5802-8365</p> |
| <p>船はうまいもん パラダイス! グルメな海ご飯 「Ocean Gate」 Vol. 6 全日本海員組合 船内で働く人達の力の源は「食事」。今号は、外航コンテナ船の食事を紹介。日本発の川崎汽船のコンテナ船(日本人5人、フィリピン人20人が乗船)で人気のメニューは、牛肉しゃぶしゃぶ、焼き肉、鰯塩焼きと醤油ラーメン、鍋焼きうどんと豚肉&白菜煮付け。 03-5410-8311</p> | <p>特集「研究者の提案する海と地球の自由研究」 「Blue Earth」 7-8月号 海洋研究開発機構 今号は、夏休み向けの内容。工作、飼育、実験、地学、生物、物理学、工学と多彩な分野での研究テーマやホームページにあるデータベースの活用術も紹介。例えば「北極と南極の氷が融けたら」、「ホームセンターで岩石採集」、「実験!地震の発生」など。 045-778-5440</p> |
| <p>戦時徴用船遭難の記録画展開催 「潮騒」第26号 日本殉職船員顕彰会 大阪商船(現商船三井)株の嘱託画家、故大久保一郎氏が戦時中に描いた徴用船遭難の記録画7点が松山市の愛媛県美術館で8月19日から24日まで展示される。さきの大戦の実相を伝える資料が殆ど残っていない中で、貴重な資料という。 03-3234-0662</p> | <p>海に想いをよせて 「Ship&Ocean Newsletter」 No. 191 海洋政策研究財団 女優の岸ユキさんは「郷里へ帰っても、子供のころ歩いた砂浜も泳いだ海も今はなく、遠い存在になった。人々の生活や意識の中からいつしか海は離れてしまったように思う。暮らしの中で、海を体感できる環境を守ることが重要」と語っている。 03-3502-1828</p> |

「日本倉庫時報」第1173号
講演・国際飼料穀物需給動向
「燈光」 6・7月号
湾航路標識の巡回点検保守

日本倉庫協会
03-3643-1221
燈光会
03-3501-1054

「CDIT」 Vol. 25
沿岸域の活力・安全を考える技術 03-3234-5861
「SRC NEWS」 No. 76
実船建造に向けてのノウハウ 0422-40-2820

* その他海事資料 *

「外航船から見た日本船長協会自主設定分離通航方式に関する実態調査報告書」

日本船長協会

標記の分離通航方式は、昭和45年6月運用を始め、2度の改定を経て現方式が運用されている。報告書は、「分離通航方式は、日本沿岸における外航船舶の約9割を外国籍船が占め、船型は大型化するなど海上交通環境が変化した今日、海難の未然防止に果たす役割を一層深めていると考えられる」としつつ、「外国人が主体となった外航船船長たちに、同分離通航方式が

どのように認識され励行されているか、平成9年にアンケート調査を実施した」としている。その上で、「調査結果で注目すべきは、自主設定分離通航方式に法的拘束力は無いにもかかわらず、外国人船長によく知られており、海難防止に少なからず寄与してきたと考えられる」とし、「このことは、今回のアンケートによる実態調査に回答を寄せた内外の外航船船長の大多数が『法制化が必要である』としていることなどからも伺える」と述べている。

問い合わせ先：電話03-3265-6641

* 海のイベント情報 *

特別展 海からの恵み 広がる未来への夢 鳥羽の「海の博物館」で開催

三重県鳥羽市の「海の博物館」で「特別展 海からの恵み 広がる未来への夢」を9月23日まで開催。

同博物館のある志摩半島は、古代から海藻類を奈良の都に送るなど、海藻類と関わりの深い地域。現在でも春のワカメ、ヒジキ、テングサ、夏のアラメを海女さんらが採取する姿が見られ、秋から冬にかけてはノリやアオノリなどの養殖も盛んに行われている。海藻類は、古来から食用に限ることなく漆喰、糊、肥料、文様などにも利用されてきた。現代でも美容品、化粧品、衣料品、日常生活品、遺伝子鑑定などに活用されているが、その事実を知る機会は殆どない。

海藻と日本人がどのようにかかわってきたのか、最近の海藻利用はどのようなものがあるのか、海藻とこれからどうかかわっていくのかをテーマに、海藻類の美しい色や独特の形、大きさなども紹介。

（日本財団助成事業）

問い合わせ 0599-32-6006

日本郵船歴史博物館で 企画展「渡辺義雄が写した船」を開催

写真家渡辺義雄(1907～2000)が戦前写した船の記録写真を紹介。1940年の新田丸竣工記録写真などオリジナル写真40点を含む50点を展示。

会期：9月6日(土)～12月28日(日)

問い合わせ 045-211-1928

「平成20年版海事レポート」と「数字でみる日本の海事2008」を発行

(財)日本海事広報協会は、7月21日(海の日)に「平成20年版海事レポート」(A5判、224頁)と「数字でみる日本の海事2008」(A6判、202頁)を発行した。「海事レポート」は、トピックで見る海事分野、海事行政における重要課題、海事の現状とその課題などについて記述、また「数字でみる日本の海事」は、世界海運、外航海運、内航海運、船員、港湾、造船、マリンレジャーなどの各分野についてのデータ集。定価は、前者が税込1,050円、後者が同700円。注文は下記まで。〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6 湊SYビル3F (財)日本海事広報協会 事業部(電話 03-3552-5033)まで。

◆ 「FAX短信」についてのアンケートにご協力下さい。

アンケートは当協会ホームページ(<http://www.kaijipr.or.jp>)の「書籍販売」をクリックし、その中の「FAX短信」の欄にあります。

